

史跡利神城跡の整備が始動

調査整備委員会が初開催、委員長に藪田氏

◆新体制が発足、調査速報を報告

令和8年6月22日、佐用町役場第1庁舎の防災会議室で、史跡利神城跡調査整備委員会の第1回会議が開かれました。

この委員会は、これから始まる本格的な整備を専門家とともに進めるための新しい体制です。会議ではまず委嘱状の交付と町長のあいさつが行われ、続いて委員長と副委員長を選ぶ話し合いが行われました。

その結果、委員長には藪田貫委員が、副委員長には福井亘委員が選ばれました。

そのあと、実施中の調査報告に移りました。まず取り上げられたのは、天守跡や本丸跡などで6月8日に行われた地中レーダー探査の速報です。

これは地面を掘らずに電波で地下を調べる方法で、その結果、地下の浅い場所で反射が見つかり、建物の柱を支えた礎石跡などが残っている可能性が示されました。

さらに、利神山の現況を調べている地盤調査の結果も報告



委員会会議のようす

されました。山城に影響のある断層などは無かったものの、地盤表層は岩盤の風化がみられ落石などの懸念も指摘されています。これについて福井副委員長は、登山道のそばには鉄道が通っており、落石による影響の心配があると述べ、危険な箇所には対策を早めに進めるよう求めました。続いて北垣委員は、石垣の下にはもろい岩盤があるかもしれないと述べ、その点を踏まえて崩れた石垣の直し方を考える必要があると話しました。

◆二の丸石垣の安定化を協議

会議の後半では、令和7年6月に崩れた二の丸東区の石垣について専門家が意見を交わしました。

まず西形委員は、地盤調査の結果を見たうえで、利神城では大がかりな近代工法による斜面の安定化までは必要ないだろうという見方を示しました。そのうえで、まず是不安定な石材を取り除いて崩れた面を安定させる作業を早く終わらせ、どう復元するかはその後で検討すればよいと述べました。続いて西形委員は、石垣の内部にある「栗石」の層について、雨で滑り落ちないようにゆるやかな斜面で残すべきだと助言しました。

令和8年6月22日、佐用町役場で「史跡利神城跡調査整備委員会」の第1回会議が開かれました。委員長には藪田貫委員、副委員長には福井亘委員が選ばれました。会議では天守や本丸のレーダー探査や地盤調査の速報が報告され、二の丸東区で崩落した石垣についても専門家が意見を交わしました。いよいよ本格的な整備が動き出します。

また北垣委員は、崩れる前に撮られた写真を立体的に見比べることで、石垣の下の様子や積み直された場所などが分かると述べ、こうした作業も大切だと話しました。

工事の進め方についても意見が出ました。福井副委員長は、工事の際に現地の樹木を支えとして使うのは良いとしつつ、樹木を切る場合は崩落の危険がないか確かめる必要があると注意をうながしました。

そして北垣委員は、雨水対策として、青森県の弘前城などで使われている水をためて蒸発させたり流したりする方法も参考になると紹介しました。

こうした議論をふまえ、令和8年度は二の丸の崩落石垣の安定化などについて委員会でも話し合っていく予定です。町は委員会とともに、貴重な史跡を未来へと確実に受け継いでいきたいと考えています。

～利神城のふうけい～



北新町からみた利神城



No.35

2026

令和8年6月

国史跡
利神城が
かわら版

Rikan Castle Kawaraban, No. 35

編集・発行

佐用町教育委員会教育課

〒679-5380

兵庫県佐用郡佐用町佐用 2611-1

☎ 0790 - 82 - 2424